

大串ひろやす通信

調査なくして発言なしとは公明党の伝統です！会派の政務活動の成果を定例会ごと通信として発行しています。読まれてのご意見、ご感想をお待ちしています！

ページ	コーナー	内 容
1	トップページ	◇ 今回の台風災害から防災対策の何を見直すべきか！
2	一般質問	◇ 幼児教育・保育の質の確保と向上を！
3	ちょっと教えて	◇ 総合住民サービスなどのシステム(基幹系システム)更新に必要なことは！
4	朗 報	◇ ロタウイルスワクチンが来年度より定期接種に！
	参 考	◇ ①保育の質に二つの視点 ②幼稚園・保育園が変わる ③区の役割と責任は

15号、
19号の

台風災害から防災対策の 何を見直すべきか



防災ラジオ

台風15号、19号の被害から現防災対策の何をどう見直すべきなのか。見直しの視点の1点は情報の伝達であり、もう1点は人材の育成であろう。私は第3回定例会決算審査においてこの2点について質問を行った。情報の伝達は住民が避難を行うためには欠かせない。正確で迅速な情報伝達だ。そこで、必要になるのが防災ラジオである。千代田区では平成27年度以降防災ラジオ

がない。ごく一部の人にしか配られていなかった。(左の写真)今回の台風災害を教訓に希望者全員への配布が検討されることとなった。あと1点は人材の育成だ。台風19号の際、阿武隈川支流の五福谷川に接する地区では住民の方が、行政の支持を待たずに、自ら過去の例から判断し近隣の住民を高台に避難させ地区の全員が助かったという。いざという時、各地域にこのような人がいてくれることがどれほど心強いことか。この点、区では防災の知識を持った防災士の育成を昨年度より進めている。改めて人材としての防災士の育成に努めていくとされた。

幼児教育・保育の質の確保と向上を！



「なるほど！せたがやのほいく」を掲げて
10/2 本会議一般質問にて

参考①

保育の質には二つの視点がある！

平成29年8月21日の日経新聞に「保育所 幼児教育の場に」「世界各国 質への注目高まる」との記事が掲載された。オランダ、オーストリア、英国などの取り組みと共にOECDの田熊美穂シニア政策アナリストの意見が紹介された。「子育て施設の質には規制と周囲とのかかわりという2種類の視点がある。施設の広さや子ども一人当たりの職員数が規制の質にあたる。日本の認可保育園の場合、こうした規制は充実しているとされる。ただ、子どもと周りの職員や保護者とのかかわりも教育の質を左右すると。大事な指摘である。記事では「就学前教育何が必用か」と問いかけ、「日本では保育所の質より量の議論を重視してきた」が、「保育と教育の質の充実を考えていきたい」と結んでいる。その通りである。2種類の視点の内、質の確保に一定の規制が必要なことはわかる。しかし、もう一つの「周囲とのかかわり」とは具体的にはどういうことなのか、記事にその記述はない。翌平成29年に保育所保育指針や幼稚園教育要が同時改訂されたが、そこに記述がある。①子どもの自主性を尊重すること、②また、子どもの呼びかけにきちんと応え、受けとめてあげる大人の応答的で受容的なかかわり方であり、③そういう関係性の中で子どもは発達、成長すると。保育の質とは幼稚園や保育所のみ話ではない。子どもと関わる皆で確保し向上させていくものといえる！

1. 区の目指す幼児教育・保育のあり方とは

問 平成27年4月にスタートした子ども・子育て支援新制度は待機児童の解消と保育の質の確保を目指し縦割りをなくし幼稚園と保育園を一つにまとめることにあった。いわゆる幼保一体化だ。簡単ではない。施設としては幼稚園、保育所、認定こども園などはそのまま残ることとなった。制度としては新制度として一元化されたのだ。幼保一体化ということでは千代田区はこれまで「いずみこども園」や「昌平幼稚園」などを設置し国に先行し行ってきた。そこで、区の目指す幼児教育・保育のあり方とはどういうものか。

答 〈教育長答弁・要旨〉
本区は、全国に先駆けて幼保一元化に取り組み、区立こども園や幼保一体施設を開設してきた。また、平成26年には(略称)「子どもの環境確保条例」を制定し、各園の特色を尊重しつつ設置主体の別や幼稚園・保育園といった認可形態の違いにとらわれることなく子供たちが等しく良好な教育・保育を受けることができ、子どもたちが健やかに育つ地域づくりを進めてきた。国の一連の改訂は本区の目指す保育・教育の方向性と軌を一にするもので今後も変わりはない。

大人の子どもへの関わり方が 保育の質を左右する！

2. 幼児教育・保育の 質とは何か

問 保育の質には二つの視点がある。一つは配置基準や面積基準などの規制であり、二つ目は子どもへの大人のかかわり方であるとされる。(参考1) その関わり方とは①子どもの自主性を尊重すること、②また、子どもの呼びかけにきちんと応え、受けとめてあげる大人の応答的で受容的なかかわり方である。③そして、そういう関係性の中で子どもは発達、成長するという。保育の質の大切さである。そこで、区の考える乳幼児の保育・教育の質とは何か。

答 〈子ども部長答弁・要旨〉
区は、「子どもの環境の確保条例」、「次世代育成支援計画」、「就学前プログラム」により、乳幼児の教育・保育の質を担保してきた。特に、子供たちの健全育成を目的として、幼児教育・保育の内容を明らかにするため「就学前プログラム」を策定し幼児教育・保育を展開してきた。

大人の子どもへの関わり方とは
1.子どもの自主性を尊重すること
2.子どもへの応答性と受容性
3.その関係性の中で子どもは成長する



3. 就学前プログラムの 更新を提案する

問 就学前プログラムには大人の子どもへの関わり方が具体的に書かれている。子どもと関わる全ての人が理解することが大切である。イラストなどを使い誰にもわかる保護者版の就学前プログラムの作成を提案する。所見は。

答 〈子ども部長答弁・要旨〉
保育指針、幼稚園教育要領等の改訂内容も盛り込み、誰にもわかりやすい「就学前プログラム」として改訂を進める。

参考②

幼稚園・保育園が変わる！

奈 良女子大学教授の中山徹氏は述べている。「幼稚園や保育園が急速に変わろうとしている。どのような幼児教育、保育を展開しなくてはならないかが議論されていない。そこで、注意しなければならない点は何か。保育所や幼稚園の改革を進めるのであれば、その方向性はどのような幼児教育や保育を展開するのかをまず考え、それを実現するためにどのような制度政策に改善すべきか、という道筋にしなくてはならない」（「誰のための保育制度改革」中山徹著より）と。待機児童の解消問題や子どもの虐待事件も続き制度の改正を急ぐ必要があったとはいえ、中山氏の述べることももっともだ。国の作成した「なるほどBOOK」は制度面をわかりやすく説明したものだが、国として目指すべき幼児教育・保育ををわかりやすく説明する「なるほどBOOK」も合わせて作成し国民に理解を求めることが必要だったのではないか。これからでも遅くない。

ちょっと教えて



朗報

街頭での区政報告を
行っています！ロタウイルスワクチンが
定期接種に！

上段左は飯田橋駅前、右は四ツ谷駅前
下段左は市ヶ谷駅前、右は飯田橋駅前

街頭での区政報告を定期的に行っています！火曜日の9時半からは四ツ谷駅前にて、金曜日の9時半からは飯田橋駅西口前と市ヶ谷駅前を交互に行っています。議会日程もありますのでその場合は日時を変更して行うようにしています。

内容は主に定例会における議員団として行った質問などを紹介しています。最近では、①台風の被害を受けて防災対策をどう見直すのか。②幼児教育・保育の無償化のスタートにあたり保育の質の確保と向上は。③乳幼児へのワクチン接種についての公費助成は、などです。多くの方々に応援していただき本当に感謝です。ありがとうございます！

乳 幼児の重い胃腸炎を予防するロタウイルスワクチンが来年の10月より定期接種化されることとなりました！厚労省が方針として示しました。ロタワクチンは、生後6週から24週までに2回接種、6週から32週までに3回接種の2種類があり、いずれも飲むタイプです。いずれも費用は合計で2万円から3万円今までかかっていましたが定期接種となれば原則無料となります。多くの子どもがワクチンを接種できるようになります。朗報となりました！

参考③

児童福祉法第24条の1項を基本に！

平 成28年に、子どもの権利を新たに理念として加えた児童福祉法の歴史的な改正が行われた際、第3条に「国及び地方公共団体の責務」が新たに加えられた。その3には「市町村は（中略）第24条1項の規定による保育の実施（中略）を適切に行わなければならない」と。0歳から5歳という乳幼児の最も成長・発達の大事な時の保育・教育は、国や都道府県でなく、子どもとの関わりに最も身近な自治体が責任をもって行うことが明確にされた。本来、この24条の1項は保育所における保育の実施を謳ったものだが、あえて3条で市町村の責任として繰り返したことは、保育所での保育のみならず乳幼児の保育と教育の全般において責任をもって行うこととしたのではないだろうか。今回の一般質問で、区の役割と責任についてこのことを質問した。教育長からは「今後も第24条の1項を基本として保育・教育を推進していく」との答弁があった。大事な点だ。是非、進めてもらいたい！

編集後記

先日、WheelLog代表の織田友理子さんにお会いすることができました。織田さんは、バリアフリー情報を共有できるスマートフォンアプリ「WeeLog!」を考案し、201

5年に「Google インパクトチャレンジ」でグランプリを受賞されました。織田さんと一緒に活動する車いすの方の紹介でお会いすることができました。感謝です。これからも応援していきたいと思います！大串ひろやす